

宮廷料理人ヴァテール」★

た一大スペクタルドラマです。 の饗宴と隠された愛と陰謀を描い を招くシャンティー 城での三日間 宮廷料理人フランソワ・ヴァテール。 最後の仕事になったルイ十四世 十七世紀に実在したフランスの

ヤンティー (ホイップクリーム) 者に任命されて能力を発揮します。 歳で宴の総てを取りしきる総責任 の考案者でもあります。 ルはその才能を認められて二十二 お菓子に使われるクレーム・シ 菓子屋で修行を始めたヴァテー

世が隆盛を極めていた一六七一年。 ためにシャンティー 城主コンデ大 国王ルイ十四世の信頼を取り戻す ユ宮殿の五○○人を越す人の饗宴 公は避暑に来るというヴェルサイ 時は太陽王と言われたルイ十四

> ーマパーク」が出来そうなスケー す。 ァテールは、国王を魅了するため 代の日本円に換算すると三兆五七 使ったお金は、当時の国家税収の ルです。当時莫大な借金までして 億円と言いますからセットで「テ りたいくらい。映画製作費は四○ 者にとっては一コマごと写真に撮 華さと美しさ、料理をやっている で見るにはもったいないほどの豪 です。その華やかさ贅沢さは の三日三晩の祝宴を取り仕切りま を計画。 ・美術部門」で大賞を受賞した映画 四〇分の一。三日間の宴会は現 四億円に匹敵するそうです。 今年の七一回アカデミー 賞 総責任者に任命されたヴ 回

め 国王を魅了し驚嘆、満足しても 度失った信用を回復させるた

使用人が居たとはいえ五〇〇人の

宴会を一人で仕切る器量があった

をもたらし国王から天才だとの評 総合指揮官として、予定通の成果 みならず美術にも才能を発揮して は祝宴をデザインします。料理の

〔を得ます。それにしても多くの

と極端な贅沢が見えます。今に残 たびに、大勢の国民の貧しい生活 するお金の使い方をしたものです。 きいと言えるでしょうか。 熟なときは生活レベルの格差が大 ます。洋の東西を問わず社会が未 と思えるほどの資金が使われて る文化遺産もいまでは建設不可能 らおうとはいえ、今では想像を 中世ヨーロッパの文化に触れる

と思うと寂しい気もします。 のような壮大な物は出来てこない 社会というものなのでしょうか。 なくても社会主義的な世界が進み りましたので、平等とまでは行か の有りようにも影響する時代にな 喜ぶべきことでしょうが、かつて つつあって、それが成長した人間 あらず、世界的な見地からその国 今となっては自国のことのみに

> 「氷の饗宴」と銘打ち、ヴァテール 二日目は「水の饗宴」三日目は

たこの映画。贅の限りを尽くして

ともあれ史実に基づいて作られ

います。一日目は「太陽の栄光





ての域を出なかったこと、忠誠心 とがヴァテー ルを絶望させたと思 を誓った大公に賭けに出されたこ

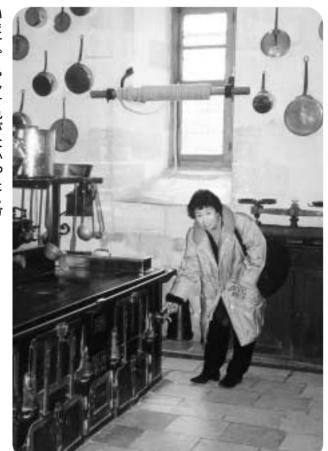
とを知って嘆き悲しみます。更に ー ムにヴァテー ルを賭けられたこ のです。直後に魚はふんだんに届 成ったのか、わずかに届いた「カ 目の魚が届かないことが引き金と 完璧な準備にもかかわらず、三日 ことに驚きます。 き弟子達によって宴は無事終わり ワインを自室に持ち込み自殺する 二、ロブスター、カキ」そして赤 しかし、国王とコンデ大公のゲ

成果を残しながらも、使用人とし 最高の立場におかれそれなりの

とでしょう。 ァテールほどの腕の持ち主、ほか の食材で見事な料理に仕上げたこ います。 もしそれがなかったらヴ

見るに付け「食事は粗食にしょう。」 らした足を痛そうにしているのを すから、大公が通風の為に赤く腫 ったのは「通風」です。贅を尽く した食事の結果は自身の体にきま 過ぎないのかもしれません。 誰でも代用が効く、小さなコマに と思っても、社会の歯車の中では この映画でもうひとつ興味があ 自分が今ある立場を努力の成果

とあらためて思いました。



幸子の

映画食べある記